

パンフレット「小学校の適正配置（統合）について」

(大阪市教育委員会)



小学校の  
正規書（読み）について



大阪市教育委員会



大阪市では、小学校の配置や規模の適正化については、有識者で構成する「大阪市学校適正配置審議会」の答申をふまえて取り組みを進めています。

平成 22 年 2 月の答申では、「学校の配置の適正化への取り組みには地域の理解が必要不可欠であり、保護者、地域関係者による適正化に向けた機運の醸成のもと、市民の主体的な取り組みによる適正化を進める」ことが望ましく、市民のみなさんにはさまざまな情報を提供することが意義あると示されました。

教育委員会では、保護者・地域のみなさんが、適正化についてより深く考えていただけるよう、このたび「パンフレット」を作成いたしました。

# 大阪市学校適正配置審議会の答申（平成 22 年 2 月）の概要を紹介します。

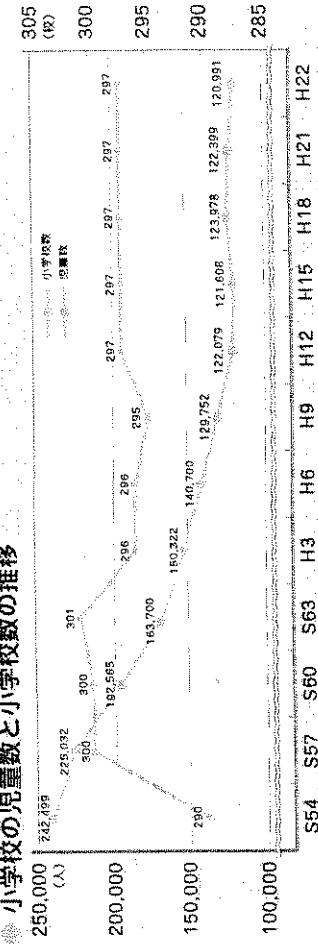
## 11 学級（クラス）以下の小学校は適正配置（統合）の対象です。 (12 学級～24 学級が適正規模です。)

小規模校（11 学級以下の中学校）では、「学年によつては 6 年間クラス替えもできないことから、人間関係が固定化する傾向にある」「音楽の合唱や合奏、体育の集団競技などは困難な場合もあり、教育活動の幅が狭くなる」などの課題を抱えています。それらの課題の解消を図るために、適正配置（統合）が必要です。

- 速やかに「統合」に向けた調整を進める必要がある小学校
- ① 模式学級（2つの学年の児童で構成する学級のこと。原則は2学年あわせて16人以下、第1学年の児童を16人以上あわせて8人以下）を有する小学校、他の学級にあつては8人以下）を有する小学校、もしくは模式学級を有していないものの、全ての学年の児童数が 20 名未満であり児童の男女比率に著しい偏りがある小学校を有する小学校
- ② ①には該当しないが、児童数が 120 名を下回る状況であり、今後とも児童数が 120 名以上に増加する見込みがあり立っていない小学校

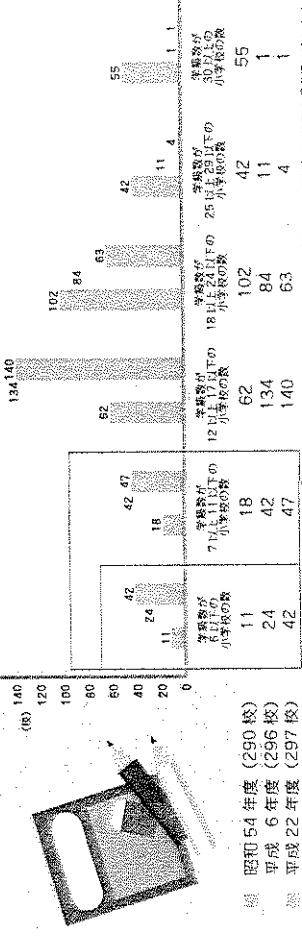
- ③ 現在児童数が 120 名以上の状況ではあるが、今後児童数が 120 名を下回ることが見込まれる小学校
- ④ ①～③には該当しないが、今後とも全年單学級の状況にあると見込まれる小学校
- ⑤ 現在 7 学級以上 11 学級以下の状況ではあるが、今後全学年単学級の状況になることが見込まれる小学校
- ⑥ 今後、7 学級以上 11 学級以下の状況にあると見込まれる小学校

保護者・地域のみなさんによる適正配置の対象となる小規模校の教育上の課題など、さまざまな情報を提供する。（パンフレットの配布など。）



児童数は、昭和 51 年 1 月現在の児童数です。小学校数は、開校当初の児童数です。  
児童数は、昭和 54 年度は約 24 万人でしたが、昭和 22 年度は約 12 万人となり半減しています。  
しかしながら、小学校数は、昭和 22 年度は 297 校でしたが、平成 6 年度は 297 校となり増加しています。

### 小学校の学級数の推移



保育者・地域のみなさんによる適正化に向けた機運の醸成のもと、市民の主体的な取り組みによる適正化を進めます。  
(例えば、適正化の実現を担う行政区あるいは中学校区単位での協議の場を設置し、話し合いを進めます。)  
このパンフレットが多くの方のご参考となれば幸いです。

学級数が 11 以下の小学校（適正配置）が増えていました。  
学級数が 6 (全学生単学級) 以下の学生が 1 学級、昭和 54 年度は 11 校、平成 6 年度は 11 校、昭和 22 年度は 42 校にまで増えています。  
しかししながら、平成 22 年度は 42 校にまで増えています。



## 小学校の配置の適正化(統合の取り組み)

長年の少子化傾向に起因する児童数の減少の結果、小学校の小規模化が進行していることから、平成15年7月、教員委員会は「大阪市学校適正配置審議会」に「学校規模・配置の適正化に関する基本方針」を発表し、「適正化のための具体的の方策」について諮詢会をしました。

審議会からは、平成16年9月・平成20年6月・平成22年2月に、それぞれ答申をいただきました。

平成16年9月・平成20年6月の答申をふまえた取り組みは次のとおりです。

### 平成16年9月答申より

教育効率面でのデメリットを考慮すると、120名を下回る小学校については、今後、何らかの方策を検討すべき時期にきている。特に、複式学級を有する学校等については、その解消の検討を始めるべきである。

### 平成19年4月に、北区の大阪北小学校を鶴町小学校と統合しました。

### 平成20年6月答申より

児童数が120名を下回る小学校と同じような課題を抱えている、全学年単学級の小学校を適正化の検討対象とし、基本的には「統合」の手法により進めるべきである。

### 平成22年4月に、北区の中津南小学校を中津東小学校(一部、大淀小学校)と統合しました。

今後は、平成22年2月の答申をふまえ、取り組みを進めていきます。



### これまでの小学校統合の取り組み

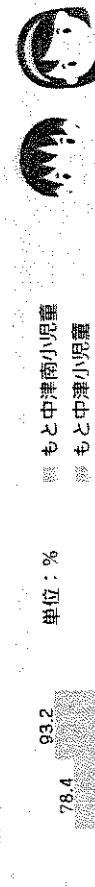
難波元町小学校	(浪速区)(昭和60年4月)
曾根崎小学校	(北区)(昭和61年4月)
南小学校	(中央区)(昭和62年4月)
大阪北小学校	(北区)(平成元年4月)
最原小学校	(平野区)(平成元年4月)
南平野小学校	(中央区)(平成2年4月)
愛日小学校	(中央区)(平成3年4月)
桃谷小学校	(中央区)(平成7年4月)
精華小学校	(北区)(平成16年4月)
北天満小学校	

## 統合に関する調査の回答

統合より半年後の平成22年10月に、「中津小学校と中津南小学校との統合に関するアンケート」を児童・保護者・教職員のみなさんのご協力により実施いたしました。

結果の一部をご紹介します。

### 統合後の学校生活には慣れましたか。(回答数: もと中津南小児童51人、もと中津小児童162人)



両校の児童のほとんどは、「学校生活には慣れれた、少し慣れ始めた」と答えています。

### 学校が統合するときに、どのような心配がありましたか。(複数回答可)

心配の種類	児童	保護者
学校の様子が変わること	51人(100%)	52人(100%)
クラスの数や学生の人数が増えること	26人(51%)	26人(50%)
学校が遅くなること	24人(47%)	33人(65%)
新しい友だちができるのが(新しい友だち関係)	29人(57%)	35人(68%)
授業の進め方が変わるのが(授業環境の変化)	19人(37%)	34人(66%)
心配はなかった	12人(24%)	29人(56%)
その他	9人(18%)	11人(21%)

### また、その心配はなくなりましたか。

心配はなくなった	児童	保護者
心配は続いている	4人(8%)	27人(52%)

児童・保護者の多くは、「学校が遅くなること」「新しい友だちができるのが多く、次に新しい友だちができるのか」といった心配が多くありました。  
心配はなくなった人は、「心配はなくなった」と書いています。

### お子様の様子を見て、学校を統合したことについて、どのように感じておられますか。

統合してよかったです	児童	保護者
どちらともいえない	48.1	21.4
統合してよかったです	48.8	38.5

児童・保護者の多くは、「統合してよかったです」と感じている人が多いです。

●学習での発表の数も増え、いろいろな友だちの意見を得ることができます。  
●統合前の1年間は、中津小と中津南小との交流活動を計画的に実施した。各学年での学習や運動などにも取り組んだことで、スマーズにとけこむことができた。また幼稚園・保育所が同じじょうすも多く、すぐに仲良くなれていった。



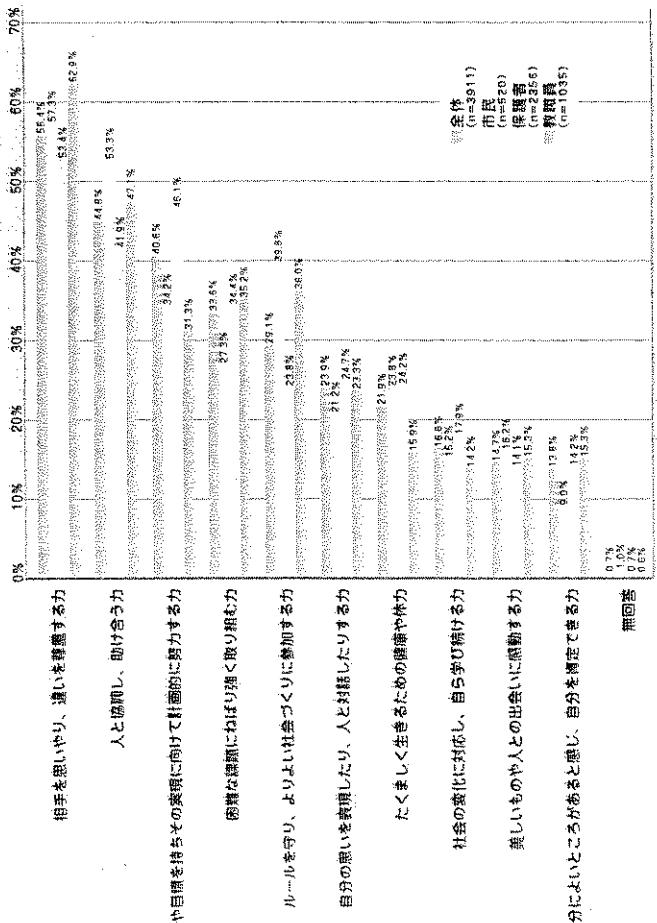
# 小規模な小学校の教育環境について

今1年生から2年生、2年生から3年生と、新しい学年を迎える時、誰と一緒にこのクラスになるか、“わくわく”“ときどき”した人も多かったのではないか。各クラス対抗の球技大会にもけ、他のクラスに負けないように励まし、あって練習したこと、他のクラスのすばらしい演奏に感動したことなどはありました。

今小規模校では、そのような体験ができないこともあります。

小規模校の教育環境に関して、「子どもたちに身につけてほしい力」「生きる力」「小規模校の課題・利点」などを紹介します。

「子どもたちに身につけてほしい力」「新規に持つべき力」「音楽鑑賞より（平成22年5月：大阪府教育委員会）  
(未来をになう大阪の子どもたちに、特にどのような力を身につけてほしいと思しますか。)」(3つ選択)



## 「小規模校の課題・利点」

「小規模校の課題・利点」	
課題	甲戌22年2月：大阪府教育委員会より
利点	
教育活動の幅が狭くなる。	学校としてまとまりやすい。 →音楽の合唱や合奏、体育の集団競技などは困難な場合もある。
児童の一人一人の生活実態が把握しやすいこと	→校外学習などで、集合、解説等の指示が通りやすい。 →学生修習割りの規則活動等、全児童が観見通りであることで研分けがしやすい。
児童の運営が少なくなる。	→運動会でのリレー、ドッジボール等の球技大会などにおいて、クラス対抗ができない。 授業の中で多様な発言が引き出しにくくなる。
その他	→クラス替えもできないことから、人間關係が固定化する傾向にある。 →児童会活動では、一人当たりの負担が大きくなる。 →教職員数も少なくなるため、学年運営に開いて学年担当教員による学年共通の指導方法の高め合いができない。

## 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会

小・中学校の改善・運営の方針に関する実際会(第1回)(平成21年3月27日)資料資料より抜粋

子どもに「生きる力」を身につけるためにどのような環境が望ましいのかという観点から考えると、一 般に、一定の規模がある学校では、子どもが集団の中で切磋琢磨することなどを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすいという利点がある。

各学年専門部となると、人間關係に配慮したクラス編制ができる、醫歯薫別指導等多様な指導形態をとることができる、スポーツでクラスの対抗戦ができる、部活動がより多くの種目、多くの人数でできるため、生徒のモチベーションがあるなどの利点がある。

人間關係が固定化すると、争いを避けたりスカウト機能が弱くなるなど、コミュニケーション能力が育ちにくいといった指摘もある。

## 「生きる力」文部科学省採録書用パンフレットより

新しい学習指導要領では、学校で子どもたちの「生きる力」を、よりいっそうはくもることを目指します。  
※新しい学習指導要領は、小学校では平成23年度に全面実施。  
**「生きる力」とは**  
「生きる力」は、知・情・体のバランスのどれか  
要件の新しいこれから社会を生きるために、誰がな人間性、健闘・体力の知・情・体をバランスよく育てる  
ことが大切です。  
(①基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、要領することにより、さまざまな問題に積極的に  
対応し、解決する力  
(②自らを律し、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性  
(③たくましく生きるための健康や体力など



## 保護者・地域のみなさんとの話し合いについて

教育委員会では、平成 22 年 2 月答申において、「速やかに「統合」に向けた調整を進める必要がある小学校（①②に該当する小学校）〔児童数が 120 名を下回る、規模の小さい小学校〕」については、順次、保護者・地域のみなさんと、「統合」に向けた話し合いを進めていきます。

保護者説明会などを開催し、小規模校の教育環境についてご理解いただき、「統合」に向けた合意形成をはかります。その後、統合後の校名や校章、統合後の円滑な学校生活に向けての事前の小学校間での交流活動、通学路の安全対策など、多くの事項について、保護者・地域のみなさんと検討いたします。

また、平成 22 年 2 月答申において、「今後の児童数の推移を注視し、順次取り組みに着手する小学校（③～⑥に該当する小学校）」については、保護者・地域のみなさんに、主体的な取り組みを期待しています。

PTA や「はぐくみネット」など、保護者や地域のみなさんが集まる時に、テーマとして「小学校の小規模化」を取り上げていただけませんか。

希望があれば、職員が説明にお伺いさせていただきます。

### 10人以上で構成された団体・グループの学習会に、職員が説明にお伺いします。

- 会場（市内に限る）は、団体・グループの負担にて用意して下さい。
- 日時は、原則として月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）の午前 9 時～午後 9 時の時間帯で 2 時間までです。
- 業務などの都合でご希望にそえない場合があります。  
また、開催日時等の変更などをご相談させていただく場合もあります。
- 職員がお伺いするのは、大阪市の小学校の小規模化の現状などについて、ご理解を深めていただくためのものです。（苦情や要望をお聞きする場ではありませんので、趣旨をご理解のうえお申し込み下さい。）
- 詳しくは、下記の「お問い合わせ先」まで。

